

まちの話題

話題のニュースやイベントなどを紹介！

遊具出現でニッペパークにぎわう

感染落ち着いた11月 6000人がkids祭満喫



11月27日と28日、「にこにこひらkids祭」がニッペパーク岡東中央で開かれました。「子どもたちに笑顔あふれる場所を」との有志からなる実行委員会が主催。ハチの巣状の全長10mの迷路や汽車のアトラクションなどが設置され、あちこちから「あれ乗りたい！」など子どもたちの元気な声が響きました。今村絢菜さん（28歳）は「トーマス好きな息子は汽車に乗れて大満足。コロナが落ち着いてまたイベントに来られてうれしい」と話しました。

リサイクルって楽しい

楠葉西中でSDGsテーマの報告会



11月17日、楠葉西中学校で3年生発案の「SDGsサミット」が初めて開催されました。全校生徒423人が10分科会に分かれ、専門的な意見も取り入れようと企業や行政関係者を招きSDGsの取り組み目標にある環境やジェンダーなどをテーマに発表。ペットボトルキャップの回収業者が少ないことを知ったチームはキャップを使ったコースター（写真）作りに挑戦し再利用の大切さを訴えました。熊埜御堂里奈さんは「リサイクルが楽しくなり今も昼休みに作っています」と笑顔でした。

体跳ね上がるタックルに圧倒

東京パラリンピック銅・羽賀選手らが指導



12月5日、4種目のパラリンピック競技などを体験できる「障害者スポーツ・レクリエーションフェスティバル」が渚市民体育館で開かれました。唯一タックルが認められている車いすラグビーでは、東京2020パラリンピック銅メダリストの羽賀理之選手らが68人に直接指導。会場に車いす同士の激突音が響き、参加者が絶叫する場面も。小学3年生の藤田すみれさんは「体が跳ね上がる激しいプロのタックルに圧倒されました」と笑顔でした。

作ったブブゼラの音は面白い

世界の魅力に触れる多文化フェス2年ぶり開催



11月23日、「ひらかた多文化フェスティバル」がニッペパーク岡東中央で2年ぶりに開かれました。フラダンスなど9つの民族舞踊が披露されたほか、世界各国の民芸品が並んだブースでは、ネパールのカエルの置物を買って帰る親子の姿も。磯島南町在住の井村佳奈さん（8歳）と秀一さん（5歳）は南アフリカの楽器ブブゼラを紙で制作体験。「変わった音がして面白い！アフリカのきれいな服も初めて見た」と目を丸くしていました。

↓ほかの話題はこちらでチェック！



市公式フェイスブック
「マイカタちゃいます、ひらかたです。」



市公式ツイッター
「こちら、枚方市です！」



市公式インスタグラム
「i_am_in_hirakata」



市公式LINE
「枚方市」

勝利への執念、負けません

仰星高ラグビー部が3大会連続の全国へ



▲薄田周希さん(写真中央)、御池蓮二さん(同右)

全国高校ラグビー大会出場を決めた東海大学付属大阪仰星高校ラグビー部が12月8日、市役所を訪れました。3大会連続21回目の出場で、大阪予選では準々決勝から決勝まで全て完封勝利。勢いに乗り日本一を狙います。試合中の戦術指揮などを担う野中健吾さん(写真左)は「勝利への執念はどのチームにも負けません」と力を込めました。初戦は12月30日に東大阪市花園ラグビー場で開催。感染対策による入場制限にご注意を。

じゃがいもでにっこり

2年ぶりの友好・交流都市物産展に2700人



11月19日・20日に市役所前で友好・交流都市物産展が開かれ、高知県四万十市や沖縄県名護市など6市・2団体の特産品ブースが並びました。昨年は新型コロナの影響で中止となり、2年ぶりの開催に2日間で約2700人が来場。孫と来ていた川崎道恵さん(60歳)は北海道伊達市産じゃがいもを手にとり、「ポテトサラダにして食べます」と、各地の方言が飛び交う賑やかな会場での買い物を楽しんでいました。



(国立極地研究所 提供)

▲南極での観測風景。機器を設置し、氷床の流動を観測しているところです。猛吹雪で、飛んでくる雪が顔に当たって痛かった…。研究所で何気なく目にしていく観測データが、大変な苦勞を経て得られていることを実感しました(令和2年1月)。



▲樟葉西小学校の入学式。点呼を受けて手を挙げているのが私です(昭和59年)。

一人一人がずっと住みやすい街でいて

私が通っていた樟葉西小学校区には、大きな一戸建てもにぎやかな集合住宅もあって、今思えばいろんな環境で育った子がいたように思います。そんなクラスメイトたちと一緒に、自転車や二宮神社近くの駄菓子屋さんに行ったり、淀川の堤防でそり遊びをしたりしていました。社会人になり、2年前には南極へ。観測隊は研究者や医師、広報担当などさまざまな職業の集まりです。立場も考え方も違う人と過ごす時間が苦でなかったのは、多様な人が暮らす街で育ったからかもしれません。これからは枚方がいるんならとって住みやすい街であってほしいと願っています。

枚方思い出の1コマ

ひらかたかぞく

家族

枚方ゆかりの著名人の皆さんが秘蔵の写真とともに思い出を語ります。

第46回 寺村 たからさん



国立極地研究所広報室職員。日本科学未来館職員などを経て平成26年から現職。担当は研究成果の発信やイベントの運営など。令和元年から翌年にかけて、情報発信担当隊員として第61次南極地域観測隊に参加。南極からブログの執筆やInstagramライブを配信した。

編集後記

1年間の「クイズde広報」応募数が過去最高5683通に(*ω*)ノハ°升°チ3年前の約3倍で、1カ月に800通を超えること

も。皆さんの感想にとっても励まされています。去年より面白く、読みやすい紙面目指して今年も頑張ります！



編集者 S